

第32回 市長と住民の「こんだん会」
～臥雲市長にアタック！地域の元気な声を届けよう～
鎌田地区開催報告

日時 : 令和5年8月3日(木) 午後6時30分～8時
場所 : 鎌田地区公民館 大会議室
テーマ : 鎌田地区で育つ元気な子どもたち
参加団体 : 鎌田児童センター地域活動クラブ 2名、鎌田中学校 14名
参加者 : 37名(市長、総合戦略室長、参加団体16名、傍聴者15名
センター職員4名)

【懇談内容】

1 鎌田児童センター地域活動クラブ 活動紹介(会長、会計監査)

- 児童センター地域活動クラブは、利用する児童の保護者が会員となり、先生方と相談しながら活動を計画・実施する団体。ここは公民館、福祉ひろば等がある複合施設の中にあるので、地域の方々と繋がることができている。様々な行事を通して地域でたくさんの事を経験させてもらっている。
- 毎年5月に行う非常食体験では、日赤奉仕団の方々にお世話になり、子どもたちが米や水の分量を測ってハイゼックスご飯を作ったり、非常時に必要なもの、災害時の行動等について話を聞いた。
- 7月の七夕会では、地域の世代交流グループの方に講師になってもらい、工作やゲーム、紙芝居や七夕の演奏、公民館長から七夕の由来を聞くなど、交流をしている。
- 10月には地域の方々と一緒に、地域を歩く、お宝巡りウォーキングを実施。途中、公民館長から道祖神の説明を聞いたり、目的地でゲーム等をして交流している。
- 今年度は新たに、福祉ひろば利用者から折り紙や塗り絵、お手玉を教えてもらう行事や、地域のお年寄りを児童センターに招待する、ふれあいおたのしみ会の開催等を予定。
- 民生委員からの依頼で、地区のひとり暮らし高齢者に配る敬老の日メッセージカードを作ったり、オレンジカフェ(鎌田地区の認知症カフェ)参加者へのプレゼントを作っている。受け取った高齢者が大切に家に飾ったり、メッセージを見て運動しようと思ってくれているとのこと。子どもたちが地域を笑顔にし、地域の役に立っていると聞き、とてもうれしく思う。
- ここ数年、利用者が増え続けている。6年生まで預かってもらえるのでありがたいが、おやつを食べたり宿題をする場所として遊戯室を利用しないと入りきらない状態とのこと。その遊戯室にはクーラーがないので、暑い時期には34℃近くなる。保護者としては、よい環境で過ごさせてあげたいので、少しでも環境が改善されることを願う。
- 私事だが、以前上の子が長野市の児童センターのお世話になっていた。長野市では、センターは「子どもを預かってもらう場所」だったが、こちらでは、様々な季節の行事や小物づくりをするために、先生方が子どもたちのために一生懸命考え、準備して、楽しませてくれていることに感動した。児童センターの先生方にはとても感謝している。

【市長】

児童センターが、ただ子どもを預かるだけでなく、子どもたちが地域と一緒に楽しめる催しをこれまで続けていたり、今年度は更に認知症の方々等との繋がりを持っていこうと取り組まれていること、一朝一夕にはできないことだと思う。

コロナ前に比べ、人と人とのつながりを持ちにくい状況になった。市役所内で、子ども子育てに関係する皆さんが集まる会議があったが、コロナ前よりも、もっと何か新しいことをして繋がりを作っていけないといけなという話をしてきた。ぜひ、大人と子ども、お年寄りと子ども等、接点を増やすことをこれからも取り組んでほしいと思う。



また、最後のほうに話があった、児童センター施設のこと。松本は比較的涼しいので、エアコンが無くて良かった時代もあったが、今年は特に7月から8月は連日35度を超えるほどの暑さで、それがあたりまえになってしまった。公共施設へのエアコン整備は、順番付けをしながら進んでいる。小中学校、保育園、幼稚園、児童センターの、教室と保育室、先生方の事務室まで設置が済んだ。より必要性が高い場所ということと、実はそのような場所には国や県が補助金を出すので、市が負担する予算が比較的抑えられるので今まで行ってきた。

今残っているのは、小中学校の体育館、保育園や児童センター等の遊戯室。天井が高く空間も広いのでエアコンをつけて温度を抑えるのは相当大掛かりだということや、国や県から補助金が出ないので、予算を考えると難しい。

ただ、鎌田は、保育室が手狭になって本来なら保育室でやるような取り組みを、やむを得ず遊戯室でやらざるを得ない状況だということでご要望をいただいたと思う。先日、こども部や教育委員会と話して、まだ最終的に市役所の中で決定するところまではいっていないが、残っている部分も優先順位をつけて、何年か計画を立ててやっていこうという話をしている。優先順位というのは例えば児童センターで言えば、本来なら保育室で賄えるはずのことが賄えない状況となっていて優先するなど、皆で整理していこうという話をしている。

暑さの問題もそうだが、日本全国子どもの数が減っていて、いずれお年寄りを支える側の若い人たちの数が減ってしまうので、子どもが減っているということに手をこまねてはいけない。施設の問題を考えると、子どもの施設を良い状態にしないと、これから子どもを産み育てようという人たちに、なかなか前向きになってもらえない。

よく、子ども若者教育は、総合計画の1丁目1番地といって、市役所でははっぱをかける。いろいろなことをやらなければいけない中で、優先順位をつけてやっていきましょうと。最初にも申しあげたように、鎌田は人口がいちばん多い地区なので、これから松本市全体をこうしていく、という方向性を皆さんに伝える、シンボリックな意味もあると感じるので、ぜひ持ち帰らなければと思う。

2 鎌田中学校

(1) 鎌田中学校 KMDタイムの様子から (教頭先生)

- 総合的な学習の時間の中で、KMDタイムという地域との関わりを持ちながら、子どもたちが学習しているのでその様子をお伝えしたい。
- 当初は町会ごとの縦割りグループで、それぞれの町会で子どもたちが活動を選び、地域と関わりを持ちながら学んでいたが、より探究的な学習を進めようということ



- で、令和3年度からはクラスごとに学習のテーマを決めて取り組んでいる。
- 今年度のKMDタイムは「地域に生きる私たち」をテーマに鎌田地区で自分たちは何ができるのか、鎌田地区の未来について、子ども達が自ら問いを持って突き詰め解決に向かっていく、そんな学習になるように取り組んでいる。
本年度は松本市の基本構想 2030、第 11 次基本計画を軸にしながらテーマを決めて活動に入っている。

- 9月22日しらかばの日に、KMDタイムの中間発表をする予定。今日発表するクラス以外の発表も聞いていただきたい。そして子どもたちが地域に出るの活動になるので、地域の方に講師としていろいろ教えていただいたり、地域の皆様と一緒にやっていただけるとありがたい。

(2) グローバルシティを目指して (2年4組 生徒)

- 外国人観光客を呼び込むための活動について。
松本市基本構想 2030 第 11 次基本計画の政策の方向性、分野3の住民自治行政の赤丸の部分と、分野7の文化観光の赤丸部分に該当する。
- 外国の観光客を呼び込むため、松本の名所である松本城や旧開智学校などに、自分たちで作ったフォトスポットを設置し、観光の思い出を作ってもらいたい。そこで撮った写真を見た別の人から、松本に来てみたいと思えるものにしたい。
- また、松本に関するパンフレットを作り、外国人が多く行き交う空港や駅に設置・配布して外国人に活動を広げたい。具体的には、フォトスポットのある場所をマップにしたり、マップにQRコードを貼ったりして観光名所の動画が見れるようにしたい。また、松本市のYouTubeチャンネルなどに、作った動画を投稿して松本市の魅力を広めたい。

【市長】

今、街中に外国人が増えた。アメリカ、ヨーロッパ、家族連れ、団体旅行等、いろいろな形で松本に来ている。食を楽しむのと併せてアルプスの山並み、お城など松本の眺望景観の美しさを堪能したいという気持ちで来ている。特に外国人の人たちに、写真を撮れる場所をお知らせするというのはすごく大切。定番はお城のお堀の手前から松本城とアルプスが見える所だが、そういう定番以外にも、2人だからこそ見つけられたフォトスポットというのがあったら面白いと思う。

また、パンフレットは紙で作ったものと電子媒体がある。紙でもらったほうが価値があるものと、スマホで見れるほうが便利なもの、一長一短。松本市でも本当に必要なものは紙で作るが、印刷代もかかるしハードルは高いので、電子媒体のほうがより多くの人に見てもらえるということでやっている。どういうものをどのような人に届けたいか、考えるといいと思う。

(3) SDGS 廃棄物について (2年4組 生徒)

- 日本で廃棄物が一番少ない都道府県は長野県。それでもごみの量は1年間に約6万t、1人1日800g出す。京都府と接戦なので1位の座を取られないようごみを減らしたい。そこで、基本構想2030、分野4の環境エネルギー4-2ならできると思い、取り組みを始めた。
- ゴミを減らすために、他のものに作り変えられないかという意見が出たので廃棄される予定のものを捨てず、他に使えるものに生まれ変わらせることを目標にしている。
- 廃棄食材再生グループでは、廃棄される食べ物を食べられるものに変えたいと考え、スーパー等にインタビューに行ったが、廃棄予定になったものを再利用するのは安全コスト面などの理由から難しいということを感じた。
- 廃材紙再生グループでは、松本市役所環境業務課にインタビューした。市役所に出る主なごみは紙だということ、また、家庭内に出るごみの約49%は生ごみだということもわかった。
- このインタビューで、燃えるゴミと燃えないゴミがあることがわかったので、



また改めてクリーンセンターにインタビューに行ってみたいと思う。

【市長】

今年の4月から松本市のプラスチックごみの出し方が変わった。3月までは、リサイクルするプラは包装プラだけ。黄色いごみ袋に入れたプラは燃やさないで資源化、リサイクルをしている。4月からはそれだけでなく、厳密に言うと難しいが、ペンの金属やインク以外のプラスチック部分は、松本市ではリサイクルすることになった。想像以上にしっかり分別してくれて、資源に回すプラスチックが増えた。

食べ物等については、それをリサイクルに回すのはなかなか難しいと、事業者の皆さんからも言われているとのこと。資源にリサイクルできるものは何で、なかなかできないものは何か、ぜひいろいろな観点から考えてみてほしい。

そして、ごみの問題のいちばん最後は、燃やしたあとに灰が残ること。残った灰は、松本では、島内の山田町会にあるエコトピアやまだ、山田町会の皆さんが、自分のところで引き受けてもいいよと、受けてくださっているので、そこに最終処分場を造って最後の灰を埋め立てている。山を削り穴を掘って、まわりに影響が出ないようにする。その最終処分場を造るのにとってもお金がかかる。

新しく山田地区の処分場を広げるといふことで、いま何十億円もかけてやっている。でもまた何十年か経つといっぱいになってしまう。少しでも燃やすゴミの量を減らして、燃やさずリサイクルに回す量を増やすと、処分場も長く使える。最終処分場の廃棄物を引き受けてくださる方の負担も、お金も少なくすることになる。ぜひ、改めてどういうものが燃やすしかないゴミなのか、リサイクルに回せるのか、燃やすしかないゴミを減らすためには一人一人がどうしたらいいのかということを考えてくれたらなと思う。

(4) バスボム作り（2年4組 生徒）

○ バスボムを作る目的は、松本の魅力をひとつでも多く伝えたいということ。バスボムは中に小さなおもちゃが入っていたり、いろいろな色や形があって小さい子どもからも人気があり、重層とクエン酸で作るので疲労回復や美肌効果など様々な効果がある。

○ 松本の魅力が目で見えて伝わるようデザインを考え、赤色で香りがリンゴのりんごをモチーフとしたものや、紫色でブドウをモチーフとしたものなど、松本の特産品をモチーフにしたバスボムを作ろうと思う。



- 試作したが、割れやすい、色が混ざりきらない、プラスチック製の型が硬く取り出すのが大変だったなど、反省点があがった。
- 完成したら、それを地域のためにどうするのが良いか、地域の方々の声も聞いてみたい。今回作った試作品では売ったり配ったりできない。どうすれば納得のいくバスボムを作れるか課題。反省点を踏まえて納得がいくものが作れるまで改善を重ねたい。

【市長】

申し訳ないがバスボムという言葉は初めて聞いた。作り方は難しいようだが、作った後にどうするのか、売るとか配るとかという話があった。りんごやぶどう、てまりとか松本らしいものがある、作る人によって1つずつ微妙に違うだろうから、オンリーワンの、直感としては松本に観光で来た人にちょっとしたお土産として配れるようになったら面白いなと思った。松本市役所でも考えてもいいかなと思った。

(5) 松本城ライトアップ（2年4組 生徒）

- 松本城のライトアップを見て感動して興味を持ち、松本の観光客を増やすために関わりたいと思った。
市役所の観光プロモーション課に聞いたら、デザイン次第で考えると言われた。
- デザインを考える上で松本市の事を調べた。松本てまり、れんげつつじ等、市民や観光客にも知ってほしいと思い、れんげつつじの花の色をイメージしてデザインした。松本城に投影して動かしてみたいと思った。実現できるように頑張りたい。

【市長】

一昨年去年と、冬場の夜に松本城にレーザーマッピングを実施した。予算は4千万円くらいで、デザインを描いてもらいレーザーを飛ばす装置をセッティングしてやった。松本の観光で弱いのは冬と夜で、冬はホテルがいっぱいにならない。4～10月は、特に今年は今まで行動できなかった分、旅行を楽しもうということ、また外国の方は円安で物価が安いので日本に来る。ということで夏から秋のホテルはいっぱいになる。冬の松本は寒い、雪も降らない、そしてコロナでお客さんがなくなった。とにかく何かしようということで、職員にアイデアを出してもらったのが松本城のレーザーマッピング。4千万円もかけてやるのかと、議会や市民の皆さんは諸手を挙げての賛成ではなかったが、大勢の方が足を運んでくれ、大体それくらいの効果があったと思う。

今年3年目となる。1年目は初めてでインパクトあったので大勢来ていただいた。2年目、同じ東京の会社が少しデザインを変えたが若干マンネリ化し、来客が少し

減った。3年目の今年はプロポーザルを行ない、エプソンが提案した企画が通った。今年の冬は今までとは違うマッピングの松本城となる。

大都会の観光地と比べると松本は夜お店が閉まるのが早い、歩いて見て回る場所が少ないということ。なので、松本城のマッピングを見に来てもらうのが冬の夜の、一つの目玉となったし、見た後に皆で食事やお酒を楽しんで帰ろう、ということに繋がった。観光というのは、ストレートな言い方をするとお金を使ってもらうことが経済の底上げになる。そこにどう繋げるかが大事。

また、10月に大名町に博物館がオープンする。現在、夜になると入口のところにある階段に、高校生がデザインしたプロジェクションマッピングを投影しているのでぜひ見てもらいたい。

できるか分からないが、鎌田中学校の校舎の一角にプロジェクションマッピングを映し出すと面白いかもしれない。皆さんが、どんな映像をそこに映し出すか、デザインを考えること、その映し出す装置はどうやってできるのか、大がかりだとすごくお金かかるが、お金をかけなくてもできる方法があるか、みんなで考えるといいかなと思う。

(6) 防災減災について (3年1組 生徒)

- 鎌田地区周辺の危険箇所の調査や、それを基にしたマップ作成をしている。
現段階で調べた危険な場所は、田川、薄川、庄内周辺で、これから調べるのは奈良井川、寿周辺。川周辺では洪水の危険性が、山周辺では土砂崩れの危険性がある。
- (スクリーンに映した) この川は過去に氾濫したことがある。このように浅い川でも氾濫してしまう。氾濫したら頑丈な2階以上の建物に避難することが大切。
- 今後は、まだ調査していない地域を調べ、災害が起きても住民全員が安全に過ごせるようなマップを作成していきたい。
- 各家庭で防災について何か工夫してやっていることがあったらおしえてほしい。

→ 総合戦略室長

家のタンスに転落防止の留め具をつけている。また、非常食を保存し期限が近いものはビールのつまみに食べている。

→ 傍聴者

この地区の防災関係を長年やっている。非常食の保管は1階と2階に分けたり、動きやすいように車とバイクにもおいている。タンスは倒れないように、食器棚は扉があかないようにロックしている。地区では、防災のハザー



ドマップを使って危険個所を周知するなど、皆ができることを考えている。

→ 市長

実はあまりできていない。今日の話聞いてしっかり意識したい。

【市長】

最近避難場所の話のなかで、ペット同伴で避難したいという人たちがすごく増えている。松本の避難所はどのようなルールになっているかということ、鎌田中もそうだが、ペットを連れて避難所に避難することはできるけど、ペットは体育館の中には入れない。学校の敷地の中に繋いでおいてください、としか言えない状況。例えば鎌田中学校の校舎や体育館以外の敷地内にペットの避難所をどのように準備できるのか、どうしたらいいのか、課題について皆で考えていただけたらと思う。

(7) マンガン電池作り (3年1組 生徒)

- 地震が起きた時に役立つことを考え、理科の授業で作った電池の実験を続けようと思った
- 初めは自分の知識だけで作ることを目標に始めた。マンガン、亜鉛、炭を使って作る予定だったが材料がなかったので、その場にあった食塩、削った木炭、レモン汁とオレンジジュース、炭には木炭を、亜鉛はアルミニウムを使ったが、完成した物には電流が流れなかったので、木炭のまわりに針金とマグネシウムリボンをまいたが、やはり流れなかった。
- 自分の知識だけで作るのは難しいので、次はYouTubeで調べ、動画の通りに作ったが電流は流れなかった。亜鉛周りのわずかな隙間のせいか、塩酸が足りなかったか、二酸化マンガンの割合がおかしかったのか、原因は分からなかった。
- 亜鉛の替わりのアルミホイルにマンガンの粉と塩化マグネシウム水溶液を混ぜたものを包みこみ、真ん中に炭素棒を刺して完成した。電圧を測ると、2.1ボルトあった。よく使われる筒型のアルカリ乾電池は1.5ボルトなので、電池として使える位の電圧となった。
- 懐中電灯で試してみたところ、マンガン電池2つで光らせることに成功した。思い付きで作りはじめたマンガン電池を成功させることができてうれしかった。
- これからは役に立つ使い方を考えたり、他の電池も自分の力で作ってみたい。科学の面白さを知る良い機会になって本当に良かった。

【市長】

科学の面白さを知ることができたという。今まで女子はなかなか理系、科学工学に興味を持ちそれを仕事にしていくという道があまり広くはなかった。これからは

男子も女子も変わらない、そういう世の中にしなければいけないし、そうなっていくと思う。ぜひその科学の面白さをもっと突き詰めたらいいかなど思った。

(8) 赤十字の活動（3年1組 生徒）

- 鎌田中学校は赤十字加盟登録校となっている。全校のみなさんにもっと赤十字について知り、積極的に活動してほしいと思い赤十字強化週間を年3回作ろうと考えた。
- 6月に第1回強化週間を行い、赤十字社の方の講演会を開いた。講演会では、赤十字ができたときの話、青少年赤十字、赤十字マークなどについて話をしてもらった。公演会を開く前は、赤十字と聞くと病院の献血を思い浮かべるだけだったり、全く知らない人もいたと思うが、講演会を開いたおかげでベルマークの回収に参加したい、募金活動に取り組みたい、もっと赤十字のこと知りたいという意見をたくさんいただいた。赤十字に対しての考えが変化して良い強化週間となった。第2回は災害や自分の命について考えること、募金活動を予定している。
- 引き続き活動していく中で2つ、大事にしていることがある。ひとつは赤十字社の方が教えてくれた「気付いて考えて実行すること」。大人になっても気付いて考えて実行することはすごく必要だと思った。
- 二つ目は、自分だけが満足して終わらないこと。これは担任の先生が教えてくれた。今後行う赤十字強化週間も、自分だけが満足して終わらないようにしたいと思った。どうしたら全校のみなさんが満足した活動をすることができるか考えたい。この2つのことを大事にして、素敵な活動にしていけるよう努力したい。

【市長】

赤十字活動の取り組み 二つの気づき、気付いて考えて実行する、自分だけが満足して終わらない、この二つを大切にしたいという気持ちは、赤十字活動はもちろん、あらゆることにチャレンジする時にも、そのことは胸に刻んでほしいと思った。

以上、雑駁ではありますが、みなさんの取り組み、大変面白いと思った。役所に帰って、職員に参考にするよう考えてみてと言いたくなるがあった。



【総合戦略室長】

皆さんありがとうございました。総合計画基本構想 2030、第 11 次基本計画をしっかり読んで、たくさんの方の企画を発表していただきありがとうございました。まだ企画が途中ということですので、市役所に聞きたいことや分からないことがあればいつでも来てください。

また、ハザードマップを作りたいという話について。松本市も、大きな河川があふれるとこれくらい浸水します、というハザードマップを作っているが、危険箇所などをぜひ地区の皆さんに聞き取りして、鎌田独自のマップを作って頂けたらいいなと思う。

【傍聴者（町会長）】

生徒さんたちの、松本市に観光客を呼び込みたいという意見に賛同。私は松本城と旧開智学校の案内ボランティアをやっているが、お客さんに松本のファンになってもらいたいという気持ちでやっている。個人的に松本のポイントはお城と北アルプス。特に槍ヶ岳について説明するととても喜んでくれて、次は友達を連れてくると言ってくれる方が多い。さきほどのフォトスポットについて、たとえば槍ヶ岳、どこから見た槍ヶ岳が良いかなど、市でコンクールやっても面白いかなと思う。

学生さんが松本市の魅力を発信するのに、実は私も観光関係で出演しているが、松本市の公式 YouTube 等で発信できるので学生のみなさんにも提案したい。

【傍聴者（町会長）】

鎌田地区は 35 地区のうち一番大きい。最も若い地域だが、これは統計上の平均値であって、75 歳以上の後期高齢化率は、町会によって 8% から 30 数パーセントと非常にばらついている。それぞれの町会によってニーズや課題が大きく違うので、鎌田地区全体で何かやろうとすると非常に苦労する。

昨年度、鎌田地区もまちづくり協議会を発足させた。今年から何とか本格的に活動しようと始めたがなかなかうまく進んでこない。地域づくりセンターの役割というのも、とても大きい。市長さんがいつも言う、地域づくりセンターの機能強化、権限の強化は大賛成で、お金をかけることも大事だが人的な援助も欲しい。各町会、自分の町会のことでは手一杯というところが多い。大きな地区なので、全体的に見渡せる人的援助もお願いしたい。



【傍聴者】

他地区の児童センターに関わっている者として傍聴させてもらった。鎌田地区の児童センターは先進的で充実した活動があり素晴らしい。ただ児童センターはルールがとても厳しく、例えば折り紙は1日1枚だけしか使えないので手裏剣ひとつできない。夏休みは2枚。また、おもちゃも幼稚園の時使ったような物で、高学年はそれで遊ぶのかな、という状況。アフタースクールの部分を、市のほうでももう少しお金と人材を充実させていただけたらと思う。私が今行っている児童センターは、お子さんたちを安全にご家族にお渡しするという事だけ。全体を見なければいけないということで、個別に勉強を見るなど、1人に関わってはいけないという指導員のルールがある。地区の方々など多くの方が関わってくださっているが、もっと関わって頂けたら更に良いアフタースクールの時間を過ごせるのではと思う。ぜひ予算と人材をお願いしたい。

【市長】

折り紙を1枚しか使えないというのは、どこからきているのか、鎌田の児童センターもそうなのか。少なくとも先ほどのエアコンの比ではない、お金のかからないことなので、これはすぐ担当と話をしたい。また、児童センター遊戯室のエアコンの件、なかなか一挙にいかない部分もあるが、段階的には話を進めていきたいと思う。

地域づくりセンターへの人員の件、職員の配置については、本庁舎で仕事する人の割合を少し減らし、地域づくりセンターを始めとする出先機関に人員を手厚くしていくということを基本的には目指している。それぞれの仕事を少なくする、その仕事はやめよう、デジタル化を進めよう等の整理が、なかなか自分の頭で思っているスピード感では進んでいない。皆さんから見ても、言う程まだ進んでないなど思われているのではないかと思っている。そこを改めてしっかりやらなければいけないと感じた。そうは言っても人には限りがある。職員をこれ以上雇うと、そのために税金を、となるので限界があると感じる。

その時思うのは、やはり地域に住んでいる皆さんと子どもとの関わり、子どもと一緒に遊んだり勉強を教えたりするその関わりを楽しんでいただけるような環境を、我々がどう増やして作れるか。そういう関わりについて少しでも報酬をお渡ししながらその仕組みを作り、できるだけ楽しんで関わって頂ける人の人数を増やす、という仕組みを作るということが大事だと思う。

先ほどの案内ボランティアの話を聞きながら、鎌田中学校の子どもたちも、チャンスがあれば案内ボランティアをしたら面白いのではないかと、あるいは中学生だからこその視点で、松本城のフォトスポットや、私だけが知っているお勧めの観光ス

ポットへお連れしますよという、そのようなことを中学生ができたなら、少し違うボランティアで面白いなと思ってくれるのではないかと感じた。松本のファンを増やしたいし、そのためには案内するボランティアの方たち、年齢の幅もあるたくさんの人たちが関わるということがファンを増やすことに繋がると思う。

最後に、教頭先生の発表の中で、2030年の松本を背負う人間、という言葉があった。皆さんの事を言っていると思いますが、その頃みなさんは20代前半。松本には課題はたくさんありますが、これから長く生きていく人ほど、日本や松本が抱えている課題を解決できるチャンスや時間があるし、解決できず大きな負担を被るのも、これから長く生きていく人たちということは必然的。なので、みなさんのような年齢の人こそ、2030年を背負うという気持ちになってもらおうと心強いし力強いと思った。ぜひ、今日お集まりのみなさんが、鎌田を、松本を、もっともっと活力があって、そして楽しくて幸せな、そういう地域や都市にさせていただく力を貸していただくことをお願いしたい。本日はありがとうございました。